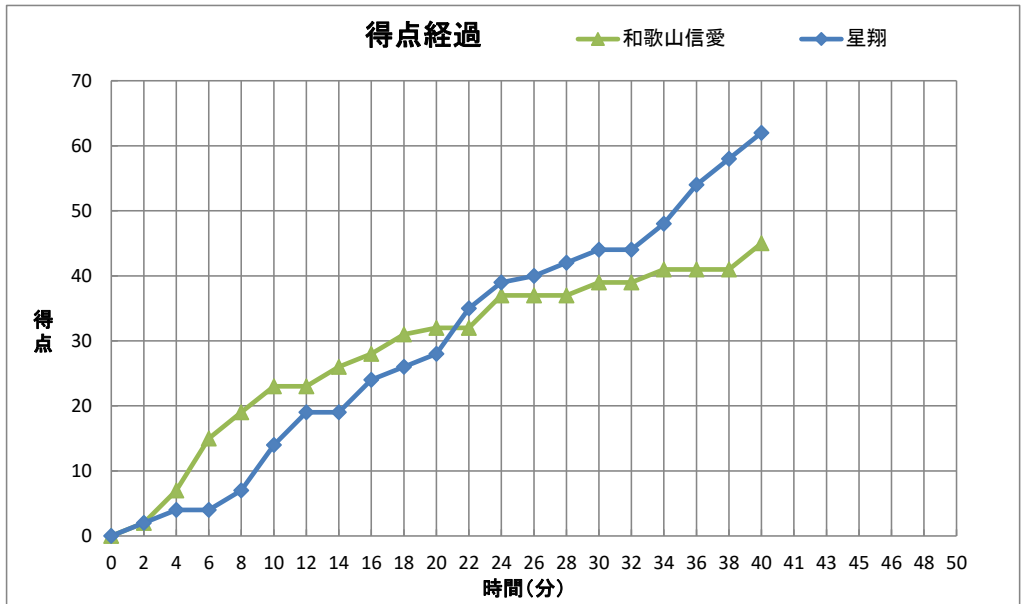




令和3年度
第68回近畿高等学校バスケットボール大会

個人トータル表

女子		6月26日				14:00 開始															
準々決勝						C															
和歌山信愛 45		<table border="1"> <tr><td>23</td><td>1st</td><td>14</td></tr> <tr><td>9</td><td>2nd</td><td>14</td></tr> <tr><td>7</td><td>3rd</td><td>16</td></tr> <tr><td>6</td><td>4th</td><td>18</td></tr> </table>				23	1st	14	9	2nd	14	7	3rd	16	6	4th	18	62		◎ 星翔	
23	1st	14																			
9	2nd	14																			
7	3rd	16																			
6	4th	18																			
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則								
* 4	木村 麻甫	8	0	4	0	5	4	磯野 百々花	-	-	-	-	-								
* 5	早川 芽衣	18	2	4	4	3	* 5	竹久 花帆	6	0	3	0	3								
6	芦部 真咲	0	0	0	0	0	7	渡邊 芽衣花	0	0	0	0	0								
* 7	軒野 玲菜	4	0	2	0	2	* 8	田浦 花香	9	3	0	0	1								
* 8	櫻井 咲音	2	0	1	0	1	9	西岡 沙奈	-	-	-	-	-								
9	藤森 来未	0	0	0	0	0	* 10	玉山 亜紀	11	0	5	1	3								
10	加美 姿月	-	-	-	-	-	* 11	市丸 律希	17	2	4	3	1								
11	石崎 帆波	-	-	-	-	-	14	原 愛音	-	-	-	-	-								
* 12	藤村 花音	13	0	5	3	3	17	下農 葵	-	-	-	-	-								
13	金力 友香	-	-	-	-	-	* 18	武嶋 すみれ	19	1	7	2	0								
14	衣笠 礼華	-	-	-	-	-			-	-	-	-	-								
15	久芳 穂波	0	0	0	0	0			-	-	-	-	-								
16	栗林 小晴	-	-	-	-	-			-	-	-	-	-								
17	寺田 朱里	-	-	-	-	-			-	-	-	-	-								
18	小川 莉々華	-	-	-	-	-			-	-	-	-	-								
コーチ	宮本 浩次					0	コーチ	金村 厨					0								
Aコーチ	入口 鈴						Aコーチ	黒田 亮平													
合計		45	2	16	7	14	合計		62	6	19	6	8								
主審: 早崎 康祐																					
副審: 真下 香子																					
副審: 岡田 全司																					



CTO	1・2P		3・4P			OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	19:32	:	26:25	35:23	36:39	:	:	:	:
TeamB	4:01	13:26	32:25	:	:	:	:	:	:

〔戦評〕
 近畿大会準々決勝は、和歌山県1位の和歌山信愛高等学校と大阪府3位の星翔高等学校の対戦。両チームとも激しいディフェンスと粘り強いプレイが繰り広げられる試合となった。
 第1Q序盤、星翔はオールコートゾーンプレスで仕掛け、#10玉山を中心に攻めようとするが、和歌山信愛の激しいディフェンスを前になかなか得点を取ることができない。一方、和歌山信愛はインターセプトからの速い攻めで着実に得点を重ねていく。星翔はたまたずタイムアウトを取るが、その後も和歌山信愛がゴール下で確実に得点を決め、勢いを止めることができない。星翔はディフェンスを2-3ゾーンに変えて少しずつ流れを掴み始め、#8田浦#18武嶋の連続得点で点差を縮め、23対14和歌山信愛リードで終える。
 第2Q星翔は2-3ゾーンで和歌山信愛のターンオーバーを誘い、連続得点で23対19と一気に点差を詰める。しかし、和歌山信愛も#4木村のインターセプトから早い攻めを展開し、逆転を許さない。星翔は、タイムアウト後、#10玉山の粘り強いリバウンドやゴール下シュートで28対26と点差を詰める。和歌山信愛もインサイドに対するディフェンスでプレッシャーを強め、オフェンスでは、素早いパス回しから相手チームのファウルを誘い、得点を重ねていく。星翔の攻めに粘り強いディフェンスを見せた和歌山信愛が32対28とリードして終えた。
 第3Q星翔は、開始早々再びオールコートゾーンでプレッシャーをかけ、32対35と逆転に成功する。ここから、両チームともにディフェンスに激しさが増し、一進一退の攻防が続く。和歌山信愛は、星翔のゾーンに対して、インサイドの得点が減り始める。一方、星翔は#11市丸がゲームをコントロールし、連続得点で突き放しにかかる。和歌山信愛はタイムアウトを取り、素早いディフェンスローテーションから相手のミスを誘うが、得点につなげることができない。ディフェンスから流れを掴んだ星翔が39対44でリードして第3Qを終える。
 第4Qなんとかゾーンを崩したい和歌山信愛は、インターセプトからの速攻で得点を重ねようとするが、星翔が#18武嶋のドライブ、#10玉山のゴール下などの連続得点でさらにリードを広げると、和歌山信愛はたまたず#12藤村を投入する。しかし、星翔の勢いは止まらず、#8田浦がこの試合3本目の3Pを決めると、和歌山信愛はタイムアウトを請求。そこからオールコートマンツーマンでプレッシャーをかけるが、落ちついて攻め続けた星翔が45対62で勝利を収めた。両チームとも終始足を動かし続ける粘り強いディフェンスを見せ、最後まで勝敗がわからない試合だった。